



ザルで砂を漉しながら小さな昆虫などの生物も見つける。



入った生物が逃げないように工夫されたモニタリング用石倉カゴ



モクズガニ、ハゼ類もたくさん



ウナギの体長を計測して記録



同定は東海大学水棲環境研究会



個体識別用のマイクロチップ



カワゲラの幼虫などもある



マイクロチップを埋め込む



「いはらの川再生プロジェクト会」のメンバー。楽しんでいます！



ウナギを核にして ひとつになった 地域コミュニティ。



国土交通省主催の平成29年度「全国多自然川づくり会議」で優秀賞を受賞したのが静岡県の一はらの川再生プロジェクトです。これは庵原川の河川工事で設置された石倉カゴにどんな生物が入るのかモニタリングを続ける活動で、調査を通じて地域コミュニティを形成し、なかでも次世代を担う子供たちを巻き込むことで活動の持続性を担保している観点が評価されました。

伏見直基代表はこう言います。「環境にいいものを設置しても、どれだけの効果があるのか（見える化）したいと思ったのがきっかけです。消防団の仲間に話すと『面白そうだ』と喜んで協力してくれました。地元の川ですから関心は高いんです。小中学生の子どもを持つ親が多かったものですから、学校や自治会にも話をし、県からは川の生物や水質調査をしている東海大学の水棲環境研究会を紹介していただき、生物の同定を担当してもらっています。僕らではヒラテナガエビとアカテナガエビの区別はできませんから（笑）。こうして県、企業、教育機関、地元コミュニティが繋がって、約50人でモニタリングを続けています。子どもも喜んでいますが、実を言うと親の方が夢中なんです」

全国に広がってほしい試みです。



特別企画展 解説ノート ウナギのいる川・いない川

2018年7月発行
2019年6月2刷

編集 遠藤成（ノーチラス工房）
デザイン 今田賢志
表紙イラスト 宇和島太郎
企画・発行 一般財団法人 東京水産振興会
〒104-0055 中央区豊海町5-1
豊海センタービル 7階
☎03-3533-8111

取材協力 揖 善継（和歌山県立自然博物館）
内山りゅう
全国鰻蒲焼商組合連合会
日本養鰻漁業協同組合連合会
静岡県静岡土木事務所
伏見直基（いはらの川再生プロジェクト）
柵瀬信夫（鹿島建設）
ポプラ社
望岡典隆（九州大学）

参考資料 『ウナギのいる川 いない川』（ポプラ社）
『ウナギNOW』（静岡新聞社）
『ウナギ養殖業の歴史』（筑波書房）
『日本うなぎ検定』（小学館）